

長篠城の御城印



奥平貞昌の籠城戦のお城



令和
年
月
日

長篠城

新城七名城 登城記念

日本 100名城の城



長篠城 (国史跡)

所在地 / 愛知県新城市長篠字市場

時期 / 永正5年(1508)～天正4年(1576)

城主 / 菅沼元成……奥平信昌

概要 / 今川家の家臣であった菅沼元成によって永正5年(1508)に築城された。その特徴は豊川と宇連川の2本の大河の合流地点に築かれていることである。奥三河の重要拠点の一つとして考えられ、今川氏、武田氏、徳川氏が奪い合い、その結果、天正3年(1575)に長篠・設楽原の戦いへと繋がっていった。主な遺構として曲輪や土塁、空堀、井戸などが残されている。

- 長篠合戦のぼりまつりは、長篠の戦いで戦死した両軍の武士の霊を鎮魂するために、関係将士の紋入りののぼり数千本を献植して行うまつりです。武者行列、火縄銃の演武、勇壮な長篠陣太鼓などが盛大に行われます。新城市長篠地区の人々は、毎年4月から長篠合戦のぼりまつりの準備で忙しい毎日が続きます。沢山の大小様々な【のぼり】を長篠城跡から国道にまで立ててまつり気分を盛り上げて、5月のゴールデンウィークを待ちます。

長篠合戦のぼりまつり

長篠・設楽原の戦いの戦没者供養のため、毎年5月3日から5日に長篠城跡を中心に開催されます。5日には城跡で武者行列や具足弓演武、火縄銃演武などが行われ、たくさんの方が観覧に訪れます。

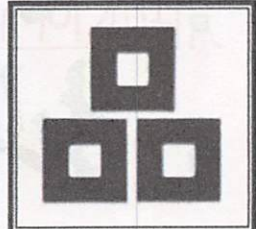


④ 新城城の解説



住所 新城市字西入船(現新城小学校内)

城の説明	見どころ:話どころ	聞きどころ
場所 新城市役所の裏側	新城小学校に土塁跡	桜淵公園のお花見
①大善寺:亀姫のお墓	②永住寺:太田白雪のお墓	③桃牛時:長篠城の弾正門を移築した門。
④浄泉寺:鈴木金七郎の菩提寺	⑤宗堅寺:新城城主菅沼家の菩提寺	桜淵公園ののど自慢大会
奥平信昌と亀姫	富永神社の大祭礼	菅沼家の家紋



* 新城城は、天正3年(1575)の長篠・設楽原の戦いで勝利した奥平信昌が、戦いで長篠城が荒廃したことと、平野部に拠点を移したい思いで、新たに郷ヶ原に築城したもので、戦いの翌年の天正4年9月に完成しています。新城市の市名も(しんしろ)この由来からとされます。奥平貞昌は、長篠の戦いの功績から、織田信長からは【信】の一字を褒美として賜り、徳川家康からは、名刀大般若長光を授けられ、長女【亀姫】を正室に迎え入れ長篠城から移り住みました。その後奥平氏は、天正18年(1590)関東へ国替えとなった徳川家康と共に、上野小幡3万石に移封され、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの手柄等により、美濃加納10万石に加増転封され、明治維新は、九州中津藩10万石で終えることに成ります。

慶安元年(1648)菅沼定実が7000石で新城城に入城し、明治まで続きます。明治5年に廃藩置県により新城城は、取り壊されました。菅沼定実は、野田城主菅沼定盈の孫に当たり、菅沼家の菩提寺は、市内の【宗堅寺】です。ちなみに、菅沼定実は、居館に近い豊川の畔に桜の木を植えこれが現代の桜淵公園の始まりと言われています。桜淵公園と宗堅寺:菅沼家代々のお墓

